

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770301703		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「希の家」2		
所在地	福島県郡山市御前南2丁目65番地		
自己評価作成日	令和3年8月21日	評価結果市町村受理日	令和4年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・郡山市での初のグループホームとして19年目になり、お客様の身体レベルにあったケアの提供をご家族様の協力も頂きながら行っている。 ・事業所は看取りケアに取り組み、医療機関との連携とお客様の状態に合わせた医療の提供のサポートを行い、主治医と共にご家族様の希望に沿った終末期ケアを支援している。 ・毎月開催される希クラブにて、お客様の希望や要望を伺い、叶えられるように計画を立て実施している。一緒におやつ作りや外出レクを実施し、お客様の笑顔を引き出せるよう努めている。また、食器拭きやモップ掛け、洗濯たたみ等、生活レクリエーションを用いて残存機能の維持と向上に努め、日常生活の中で役割を持って過ごして頂いている。 ・中庭や外回りの花壇等、季節感を感じて頂ける様に努めており、地域園芸ボランティアの方々と一緒にプランターや施設周りの花壇を行い、楽しんで頂く機会を設けている。又、外部広報にてイベントや行事の様子を小・中学校や公民館に掲示したり、ブログや福ひろばの活用にて自事業所の取り組みを地域へ情報発信し、地域とのつながりを大切にしている。防災訓練については、近隣の消防署分署に協力を仰ぎ、訓練時の立会いと指導を頂き防災意識の向上に努めている。近隣住民へは緊急連絡網の参加協力にて、災害時の協力体制の構築を図っている。 ・昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルスの感染予防のために、職員や外から来所される方々の検温、アルコール消毒等の感染対策を徹底している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>（この欄は外部評価機関からのコメントを記入する欄です。記入がない場合は、外部評価機関からのコメントはありません。）</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえて理念作成を行い、職員会議等で周知、玄関に掲示し実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍の為に地域交流は減少しているが、夏祭りや芋煮会等に参加し交流を図っていた。また、園芸ボランティアの方々に来所頂き、庭の整備だけでなく交流も図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌等の作成、掲示にて認知症の理解や支援方法等を地域に向けて発信している。また、ブログの更新も行い、情報公開している。また、認知症サポーター養成講座の依頼があった際は、キャラバンメイトにて率先して講義を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	現在コロナ禍である為、会議自体は中止している。施設での取り組み等を開催月に電話連絡や書面にて報告している。電話連絡した際に意見を頂いた時は、職員会議にて話し合い、運営に反映できるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在コロナ禍の為に、市のサービス相談員の来所は中止となっている。例年、市の介護サービス相談員の方が毎月来所され、助言頂いたりしている。現在は、運営推進会議開催月には連絡を取り、報告と助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の設置と年4回の身体拘束委員会を開催し、介護現場の現状についての話し合いの場を設けている。又、職員会議時に身体拘束の勉強会を実施。身体拘束についての理解を深め、ケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議時を中心に勉強会を行い、虐待について理解を深め、職員一人ひとりの意識向上、ケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、権利擁護について学ぶ機会を設け日々のケアに活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書や重要事項説明書等にて施設の方針等をわかりやすく説明している。また、不安点や疑問点があれば都度説明し、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やお客様アンケートにて、施設への意見、要望を伺い、結果を集計して職員間で周知しケアに活かしている。結果は掲示している。又、希クラブにてお客様の要望を伺い、希望がかなえられるよう計画を立て、実行したものについては、ブログや広報誌にて施設内での様子を公開している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時に運営についてや事業所目標についての進捗を報告している。職員の意見については個別での面談にて、管理者へ意見や要望を提示している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理の策定を行い、策定時に個別面談にて業務の進捗状況や成果等の確認、アドバイスをする事で職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量に合わせた法人内外の研修に参加する事で、知識・技術の習得に励むことが出来る機会を設けている。また、資格取得に向けた研修にも参加出来るようにし、意欲向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修参加により、同業者との交流やネットワーク作り、サービスの質向上を図っている。介護においての様々な考え方や技法を学び、力量アップに繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査時等で、本人や家族の要望を把握し、カンファレンスにて確認、プラン作成しサービスの提供に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想いや要望を聞き取り、対応出来る様に努め、相互の関係構築を図っている。要望等が聞かれた際は、プランに反映させ、希望に沿ったサービスが提供出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望、意見を聞き取り、カンファレンスを通して職員間で共有し、プランに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の身体状態を把握し、状態に合わせた役割を持って過ごして頂けるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を定期的に報告し、希望や要望を把握した上で共同で支援していく関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもゆったりと馴染みの方と面会出来る様な雰囲気や環境作りに努めている。現在コロナ禍の為に馴染みの方や友人との面会は出来ないが、オンライン面会や電話で話して頂く機会を設けて、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操等を通して、お客様同士の交流が図れ、座席の配慮も行いながら孤立しない対応、支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者やケアマネジャーを中心に、退居後でも必要に応じて相談、対応出来る様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とのコミュニケーション時や毎月行っている希クラブを通して、希望や要望の把握に努め、職員間で検討し、実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査時に家族からの聞き取りや確認を行い、本人の生活歴や習慣、こだわり等を収集し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日課やペースを理解し、申し送り表や生活表に記録する事で状態確認に努め、職員間で共有しながら状態把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当にてお客様のかかわりを多く持ち、信頼関係の構築と、施設での良い理解者として関り、意向確認や状態把握に努めている。本人、家族の希望、要望等の聞き取りを行い、把握した上でアセスメント表への記載、確認プランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に経過記録を行い、状態把握と共に情報共有し申し送りやカンファレンス時に検討・見直しに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調変化時は家族への連絡、往診や受診の対応等、選択できる提案を行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加はしていたが、現在コロナ禍の為に、地域行事への参加は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携して受診し、本人の負担や家族の希望を聞き状態により受診が困難な時は家族や主治医と相談しながら往診に切り替える等行い、適切な医療が受けられる様に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師出勤日に個々の状態を報告し、状態確認して頂いた上で指示やアドバイスを受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族や医療機関と密に連絡を取り、情報共有を図り、協力体制の構築、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りの指針を説明し、意向の確認を行っている。状態変化により、家族や主治医と連携しながら今後のケアの方針を確認し、本人・家族が安心して頂ける様、チームでのケアに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、マニュアルを作成、職員会議時を中心に勉強会を行い、周知、対応出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画に沿って、毎月の防災訓練やデイサービスとの合同訓練を行い、火災・地震・水害等の様々な災害時の対応について訓練し、確認と意識の向上に努めている。また、地域との協力体制の構築も図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対する尊重と丁寧な言葉かけ、入室時のノックや入浴、排泄時等に扉を閉めること等、プライバシーの配慮を行っている。また、勉強会も開催しており、プライバシーポリシーや接遇についても学び、意識して取り組める等努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服の選択等、嗜好に沿ったサービスの提供に努め、自己決定の場を設け支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活パターンや習慣に合わせ、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣服の選択や訪問理美容の利用により整容面での支援も行っている。又、居室にて化粧等をされる方がいらっしゃるので、化粧水等切らさない様確認し、継続して行えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	おやつや季節に合わせた行事食の提供等、お客様と一緒に作成し、食事を楽しんで頂ける様に支援している。調理だけでなく、食事の準備等もお客様にお手伝い頂き、役割を持った生活で生きがいを感じて頂けるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態や水分の提供を行い、食事・水分の摂取量も確認しながら必要に応じて捕食も提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、状態に合わせて介助も行っている。必要に応じて歯科医に相談もしている。また、うがいや歯磨きが出来なくなってきた時は口腔内ウェットティッシュの使用や洗浄液も使用し、ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンのチェックや時間を把握し、誘導や介助を行っている。また、状態に合わせて排泄用品の検討、使用を行い、清潔保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では乳製品の摂取や、運動、排泄時の腹部マッサージを行う等し、必要時には下剤も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調確認、希望の時間帯に合わせて入浴提供している。本人様に合わせた湯量や湯加減に調整し、ご希望に沿ったサービスが提供出来る様支援している。また、入浴剤等も使用し楽しく入浴して頂ける様努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室の室温、湿度の調整、一人ひとりの状態や生活習慣に合わせて休息の時間を設けている。また、使い慣れた寝具を使用し、安心して快適に休息して頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診カルテや処方箋等から服薬内容の確認を行い、変更時には申し送りにて職員間で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯たみ等の生活レクにより役割を持って頂いている。また、好きな塗り絵等も提供し、楽しみを持って過ごして頂ける様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍の為に外出は行っていないが、テラスに出て、花壇の花を観賞して頂いたり、野菜の収穫をして頂いたり、外の空気を吸う等の気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の所持はされていないが、本人・家族の希望により所持している方もおり、職員間で都度確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にやり取りができる様、家族や友人からの電話の取次ぎや手紙の投函等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう、フロアに季節感のある壁画や装飾を行っている。また、温度や湿度の調整、毎日の清掃等により環境整備に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様同士が交流を図れる様に座席の配慮、ソファ等でもゆったりと過ごして頂ける様空間の整備に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	使い慣れた家具や思い出の物を居室に自由に飾って頂き、落ち着いて過ごして頂ける空間の提供に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動の動線に不必要な物を置かない、表記を大きくし場所の案内やプレートを掲示し、安全に自立して生活出来る様に努めている。		